

茨歯発第 405 号
令和 5年 1月27日

医療従事者 様

茨城県歯科医師会
会長 榎 正 幸

介護保険講習会について

厳冬の候、貴殿益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、この度、本会では、介護保険事業の一環として、標記講習会を下記により開催することとなりましたのでご案内申し上げます。多数の方のご参加をお待ちしております。

記

1. 日時 令和 5年 3月19日(日) 10時～12時
2. 場所 茨城県歯科医師会館 3階講堂 【WEB受講可能】
水戸市見和 2-292-1 TEL029-252-2561
3. 演題・講師 「口腔機能の低下に関する最近の話題」
北海道大学大学院歯学研究院 口腔健康科学分野
高齢者歯科学教室 准教授 渡邊 裕 先生
4. 略歴・抄録 裏面
5. 対象者 医療・介護従事者
6. 定員 会場参加者定員50名、WEB参加者定員なし
※定員内でお入りいただける場合は、とくにご返事は差し上げません。
7. 受講料 無料
8. 申込方法 下記URL又はQRコードからの申込フォームで、3月10日(金)までにお申込下さい。WEB受講者の方には、受講案内メールを後日お送りします。

URL <https://forms.gle/dPCv64DoFZEWi5Kz6>

QRコード



【抄録】

口腔機能の低下に関する最近の話題

日本の地域在住高齢者約 2,000 人を対象に行われた大規模コホート調査（柏スタディ）によって口腔機能が低下している者は、低下していない者と比較して、身体的フレイル、サルコペニア、要介護状態、死亡の新規発生リスクがそれぞれ 2 倍以上高いという報告がなされた。これらの結果は全身のフレイルや、身体能力の低下に先立って、口腔機能の低下が生じていることを示唆しているだけでなく、フレイル、サルコペニア、要介護状態、死へと進行していくなかでも、口腔機能の低下が影響している可能性を示唆している。

そしてこれら結果を根拠として、平成 30 年度診療報酬改定において、高齢者の口腔機能低下に関わる口腔機能管理加算が保険収載され、口腔機能管理が評価された。さらに令和 4 年度の診療報酬改定では対象年齢が 65 歳以上から 50 歳以上に拡大されたが、具体的な対応方法については提示されていない。

口腔機能が低下している者は、地域在住高齢者から、介護保険施設等入所者や病院入院中の高齢患者まで幅広く分布している。一般歯科診療所に定期受診している高齢者の半数が口腔機能低下症に該当するとの報告もなされており、口腔機能低下症への対応は、一般歯科治療だけでは十分でないことも明らかになってきた。また要介護高齢者の多くは、口腔機能が低下していることから、それらに対する口腔機能管理は、歯科医師・歯科衛生士だけでは対応が困難であり、日常生活の中で継続的に管理していく必要がある。つまり家族を含め、医療・介護・福祉における多職種と連携を取りながら 口腔機能管理を進めていく必要があると思われる。

本講演では口腔機能低下症導入までの経緯と最近の知見をふまえ、今後口腔機能低下症を日常診療においてどのように活かしていくのか考えてみたい。

【略歴】

1994 年 3 月 北海道大学歯学部卒業、
1994 年 6 月 東京都老人医療センター歯科口腔外科医員
1995 年 4 月 東京歯科大学口腔外科学第一講座入局
1997 年 8 月 東京歯科大学オーラルメディシン講座助手
2001 年 4 月 ドイツ フィリップス・マールブルグ大学歯学部 研究員兼任
2007 年 4 月 東京歯科大学オーラルメディシン・口腔外科学講座講師
2012 年 4 月 国立長寿医療研究センター 口腔疾患研究部口腔感染制御研究室長
2016 年 4 月 東京都健康長寿医療センター 研究所 社会科学系 副部長
2019 年 4 月 北海道大学大学院歯学研究院 口腔健康科学分野 高齢者歯科学教室 准教授 現在に至る